

新聞に親しみ、自らの興味関心や課題に基づいて新聞を活用できる子どもをめざして

長野県松本市島内小学校教諭（代表） 山下 憲一

1. 実践の概要

(1) 目標

情報化社会の今日、膨大な量の情報の中から必要な情報を集め、選択し、比較・検討を通してまとめ自分の意見や考えを持ち、表現していくことができる情報活用能力は、現代社会を主体的に生きていくためには、必要能力と考える。

そこで、本校では、「新聞に親しみ、自らの興味関心や課題に基づいて新聞を活用できる子ども」をめざし、そのための指導のあり方や、場の設定を中心に研究に取り組んできた。

本年度は、この昨年度までの取り組みを受け、2年目の実践校として、さらに新聞の記事の内容や新聞での取り上げ方についても子どもたちに意識させるように支援し、新聞をより身近なものに感じられるように取り組んできた。

(2) 具体目標

① 新聞に親しむ。

- ・新聞に興味関心を持ち、進んで見たり、読んだりする。
- ・新聞記事や写真から得たことを話題にする。

② 新聞を活用する。

- ・新聞を見たり、読んだりして意見や感想を持つ。
- ・新聞から必要な情報を探し出したり選んだりする。
- ・情報を比較したり、判断したりする。
- ・収集、比較した情報をまとめる。
- ・まとめたことを発表し、お互いの得た情報を交換する。

(3) 学年目標

- ① 低学年：新聞のよさにふれる。
- ② 中学年：新聞のよさに気づく。
- ③ 高学年：新聞のよさを生かす。

(4) 研究内容

① 新聞に親しませるための工夫

- ・N I Eコーナーの設置
- ・新聞閲覧コーナーの設置
- ・テーマ別の壁新聞作りの実施
- ・スクラップブックによる新聞記事の収集

② 新聞を活用した学習

- ・新聞の教材、資料としての活用
 - ⇒社会科で学習したことを新聞形式を使ってまとめ、発表、掲示していく。
 - ⇒国語で新聞の記事をもとにしたスピーチを行い、自分の意見を発表する。
など
- ・新聞作り
 - ⇒自分の興味関心を持ったテーマについて記事を集め、テーマ別の壁新聞を作成し、発表、掲示していく。

2. 新聞の配置、整理の方法

6 学年は 3 クラスあり、ほかの学年と比べ 1 クラス少なく 1 教室空きがあるので、この「会議室」を N I E のための展示、新聞の整理を行う部屋として位置づけた。

- ・昨年度実施されたテーマ別壁新聞を壁に掲示し、いつでも見られるようにした。
- ・教室にあるロッカーを利用し、新聞を新聞社ごと、月ごとに整理し、いつでも閲覧できるようにした。
⇒ 6 年生の当番が、毎日の当番活動として行った。
- ・新聞を切り抜いて整理したり、今年度のテーマ別壁新聞を作成したりする部屋としても利用した。

3. 実践の内容

(1)新聞に親しませるための工夫

①テーマ別壁新聞作り

平成 10 年度の活動の中心は「テーマ別壁新聞作り」として、自分の選んだテーマによる記事の収集、整理を行った。興味のある記事を探したり、継続して読むことで記事が自分にとってより身近なものになることを意図し、新聞そのものがより身近なものになることを意図した。

新聞購読を始めた 6 月から 1 学期の間は、さまざまな話題の中から各自が関心のあるテーマを探すことを目標に取り組んだ。ある程度のまとまった新聞を 1 つの読み物として読んだり、同じ記事についていろいろな新聞社を比較したりすることで、自然と新聞にふれる時間が長くなり、子どもたちはテーマの選択よりも記事そのものの読み込みに時間を割いていった。

それぞれのテーマが固まり始め、焦点化されてきたのは、2 学期に入った 8 月の下旬からであった。思い思いのテーマを決め、同じテーマの 2、3 人でグループを作り、新聞記事の切り抜きを始め、模造紙に「壁新聞」としてまとめていった。

男子では、「ワールドカップ」「マグワイヤ 70 号ホームラン達成」「全国高校野球選手権記念大会」などスポーツに関連するものが多く、「ザ・巨人特集!」など自分の興味や関心に従ってのまとめが多かった。記事に関するコメントも実際に自分が経験している立場からの見方が書かれていた。

サッカー少年団に入っている子も多く、ワールドカップは大きな関心事であり、ひいきの国、選手からワールドカップをまとめたいという気持ちがあった。日本の監督問題やカズの候補落ちなど興味は尽きないようであった。

その中で女子の視点から、「ワールドカップ“ウラ”新聞」としてチケット問題を取り上げたのは、新聞への読み込みの深さを表す 1 つの例となった。問題への取り上げかたの視点と、記事の組み方、社会性へと目を向けることができたと思われる。

また、「強悪犯罪壁新聞」として青酸入りカレー事件（和歌山県）、青酸混入茶事件（長野、小布施）、新潟毒物事件（アジ化ナトリウム混入）を取り上げ、「見のまわりのいろいろな事件・新聞」として、事件や事故を取り上げるものもあった。とりわけ、毒物混入事件は平成 10 年の大きな事件であり、子どもたちの立場からも強い関心と事件の展開への注目が集まった。

「歴史新聞 in '98」として、社会科の歴史学習と自分の興味をつなげて特集を組んだ子は、自他ともに認める歴史博士として一目置かれる結果となった。考古学的な発見によって教科書で習った歴史でさえ変わりうるということは、新聞の特性に触れることにもなった。

女子の多くは、「環境問題」を取り上げた。4 月から、学校の焼却炉もダイオキシンの問題で使用ができなくなっており、身近な出来事と新聞の記事がつながり、こちらからも自分たちに近い問題として環境が意識されることとなった。全国的な関心事と地域での具体的な取り組みとの両面から記事をまとめることができ、自分たちができることを考えるきっかけともなった。

クラスには、児童会の役員として学校を代表して中日新聞社主催の『中日海洋エクスカーション』に参加する機会を得られた子があり、自分が新聞に載るという経験をすることができた。彼女がまとめた「エクスカーションの旅」は、新聞の記事のまとめとしての意味と自分の記念としてのまとめることの両面を持つことができていた。

テーマ別壁新聞作りを行ったり6年2組では、NBS長野放送の「やまびこ広場」のテレビ取材を受けるとなり、また中日新聞社からも取材されて11月22日付の記事（別紙資料）に載るとも経験し、自分たちの活動が評価されてさらに新聞に載るということで新聞への思いや親近感、はさらに増し、NIEの新聞購読が終わってからも記事のまとめへと気持ちがつながり、新聞の記事やニュースが話題となることが増え、新聞へ親しむという当初の目標以上の成果が上がったと考えられる。

②新聞をもとにした意見発表

「テーマ別壁新聞作り」は、さらにそれを基にして意見発表をする場も設けた。この発表の中で、自分がどうしてそのテーマに関心を持ったのか、調べたりまとめたわけなかったことは何か、自分は記事からどんなことを考えたのかを明確にさせた。

聞いている子たちは、自分が興味を持ったことでなくても熱心に話を聞いており、結果としていろいろな観点や視点から新聞を見直すこととなった。スポーツに興味がある子も「ワールドカップサッカー」の「壁新聞」を作っている子にとっても、毒物事件は関心の高いことであり、環境問題は身近なことであり、ほかのスポーツや歴史ものもまとめられていた。新聞の「壁新聞」を見たり、話を聞いた子も、気になるところが1つになっていった。新聞のスポーツ面やテレビ番組表だけではなく紙面にも目が向いてくることとなった。

5年生は、国語科の授業の中で新聞の記事をもとにしたスピーチを行った。これは、教科書にも載っている単元で、自分の考えを新聞の記事を基にして述べるもので、話すことを単元の目標にしているが、新聞の記事が共通の話題となったり、記事を選ぶために新聞をよく読んだり新聞に親しむことにも大きな影響を与えた。

③NIEコーナーの設置

6学年教室の隣の「会議室」をNIEのための展示、新聞の整理を行う部屋として位置づけ、全校に対してPRできるようにした。平成9年度の「テーマ別壁新聞」を掲示することで、10年度の「壁新聞」を作る上での参考にしたり、レイアウトなど学ぶことが多かった。

新聞のよさやおもしろさを知らせることができ、自由に新聞も閲覧できるようにコーナーを設置した。低学年には活動の様子や新聞への関わりを十分知らせることができなかつたが、環境として場を設定することができ、興味を向けることには一役買うことができたと思われる。

(2)新聞をもとにした学習活動

①特別活動としての展開

新聞に親しむということで取り組んだ「テーマ別壁新聞作り」は、特別活動としての時数を確保した。社会の一員としての自分、集団の構成メンバーとしての自己を意識することができ、社会事象や環境問題に対して主体的に関わっていこうとする姿を見ることができた。（詳しくは前述参照）

②社会科の授業としての展開

社会科の資料としての新聞の活用はもちろんであるが、今回は授業のまとめとしての新聞の活用を意図してきた。

4年生では、公共施設としてのゴミ処理場やゴミの分別収集などの学習のまとめとして、「ダイオキシン新聞」や「ゴミ新聞」などの名称で個人の新聞を作成した。新聞の記事を参考にして、大見出し、中見出し、小見出しをつけたり、グラフや図解を入れ

ることで、学習を自分で整理するだけでなく、学習したことを人にも伝えようという意図で行われた。その子なりの見方からの新聞作成であり、お互いの新聞を見合うことで学習がさらに深まった。

6年生の歴史学習では、その時代その時代を生き生きととらえさせるために、新聞の形式を借り、史実のままとめに迫った。「大江戸かわら版」や「源頼朝新聞」など歴史の場面を新聞のニュースとして捕らえ、まとめる自分なり、ユニークな歴史を整理することができた。イラストや4コマ漫画も取り入れられており、ユニークなものがあがった。また、お互いの新聞を読み合い、批評し合うことで、さらに歴史への興味が深まっていった。

5学年では、社会見学のもとめは同様に新聞として作られた。大見出し、中見出し、小見出しをつけることで、見学して得られたものを自分の中で順序性をもって整理することができ、わかりやすくまとめるという意図が働いた。また、作文としてまとめることと違って、イラストや図を入れやすく、全体のレイアウトを考えることで、子どもたちの個性を発揮することができていた。新聞の形式のまとめ方に慣れ、上手な子どもも出てきて、「〇〇君の作った新聞を読みたい。」という声が聞かれたり、まとめ方がうまくわかりやすいものには皆が殺到して読むなど一つの形として定着してきたようだ。

③国語科の授業としての展開

5年生は、国語科の授業の中で新聞の記事をもとにしたスピーチを行った。これは、教科書にも載っている単元で、自分の考えを新聞の記事を基にして述べるもので、話すことを単元の目標にしているが、新聞の記事が共通の話題となったり、記事を選ぶために新聞をよく読んだり新聞に親しむことにも大きな影響を与えた。

(新聞をもとにした意見発表としても前述)

4. 実践の感想と今後の課題

- ・子どもたちにとって、この2年間のNIEの指定を受けて新聞を購読できたことは、大変よい経験をさせていただいたと思われる。通常であれば、各家庭で購読している新聞は多くても2紙であり、自分の家で購読している新聞がそのままだ新聞のイメージであるが、他紙を見ることができ、いろいろな新聞のレイアウトを知ったり、特集記事を読んだりすることができた。同じ事件であっても記事の取り上げ方の違いや、一般紙と地方紙の比較が可能となった。このことは単純に新聞に対してのおもしろさを知ることにつながったようである。
- ・子どもたちの社会事象への興味・関心が、「テーマ別壁新聞作り」を通して確実に広がったと思われる。特に、教科書で学習した歴史への認識や、公民の学習を実際の政治の動きや事件として目の当りにすることで、世の中の動きに対して敏感になったように思われる。環境に対しての関心は、中でも特別なものであり、ブーム的な一過性のものではない子どもたちの意識があった。
- ・新聞を読むことや「テーマ別壁新聞作り」は、こちらが意図したよりも子どもたちにとっては楽しい取り組みであったようだ。新聞をまとめるという自分の関心事の集約であり、やらされているという意識があまりなく、活動を楽しんだ。そのため、何人かの子は、全校文集に新聞のまとめの活動を作文として載せた。6年生にとって修学旅行と肩を並べるできごとのようなようであった。

(子どもの感想の一部は、別紙資料参照)

- ・平成10年度は、毒物混入事件が相次ぎ、子どもたちにあまり触れさせたくないような事件も多発していた。容疑者逮捕という事実と事件の真相とは必ずしも一致するわけではなく、そこまでの読み取りを子どもたちにさせることは難しく、真実の見極めということでは、いろいろな情報を整理する能力が問われることとなる。
- ・新聞を読める基礎的な力、用語の解説なども必要感を感じた。じつくりと新聞を読めるゆとりのある生活環境も子どもたちにも、指導する教師にとっても大切なことである。
- ・情報の選択能力をいかにつけていくのか。テレビの持つ速報性、新聞の持つ再読や細かな背景の両立。どちらの面も有効に活用していく力などまだまだ多くの課題を抱えていることを再認識した。

興味ある記事「パッチワーク」

松本市立島内小6年2組



壁新聞で主張、訴え

「ワールドカップ、ウラ、新聞」。サッカーのW杯フランス大会でチケットが大量に不足した問題を、NIE(教育に新聞を)実践校の長野県松本市立島内小学校六年二組の児童が取り上げ、ユニークな新聞をつくった。同学級では、新聞記事を切り張りした、こうした壁新聞づくりに取り組んでいる。担任の山下憲一(教諭)も「児童たちの新聞の見方、興味の持ち方が変わった」と活動の成果を語る。

壁新聞づくりに取り組むた。

ことに決めたのは、児童ら。テーマが固まり始めたのに分りやすさ、結果を発表は、二学期に入った八月下表示しやすい形態だから。六旬ごろから。「毒物混入事件」から、壁新聞づくりに取り組むた。め、全国紙や地元紙など計八紙の購読を始めた。あまり新聞を読んでいなかった児童がほとんどで、まずは新聞に慣れさせることから始めたという。一学期の間は、さまざまな話題の中から各自が関心のあるテーマを探すことを目標にした。

環境問題など ぐっと身近に

件「マクワイア選手の水た児童がほとんどで、まずは新聞に慣れさせることから始めたという。一学期の間は、さまざまな話題の中から各自が関心のあるテーマを探すことを目標にした。下先生によると、男子は自分好きなスポーツ、女子は環境問題を取り上げた児童が多いという。

ある程度記事が集まったところで、模造紙に張り付けて壁新聞をつくった。張った記事の横には、記事を読んで思ったことや、まとめを書くなどした。見やすくなるよう、張り付けた記事を線で囲んだり、色をつけるなど、さまざまな工夫をする児童も。

女子児童三人でつくった「環境新聞」は、緑を大切にすることを呼びかけるイベントや河川清掃の様子を伝える記事を集めた。「自然は大切にしなければいけない」と思うし、みんなも読んでみると結構面白い」「テレビでニュースが見られなくても、次の朝に読めるのもぐっと身近なものにしたい」と新聞に対するイメージが変わったようだ。山下先生は、活動について「児童は、新聞にいろいろな話題が載っているのを知って、ニュースを知ろうという姿勢ができた」と話していた。

※ 中日新聞に掲載された「テーマ別壁新聞作り」の様子

資料 1

新聞をまとめてみて

六年二組 三十八番

堤 光代

私は、六月から十一月まで新聞をまとめてみて、いろいろな所に気がついたり興味をもちました。とくに、環境について興味をもちました。さう、よく環境問題についての記事を深読んでみました。

私は、環境問題の中からとくに、自然についてまとめてみることにしました。

まとめていてわかったことは、実際に緑を大切にしようというイベントを波田町で行っていたり、おじいさんやおばあさんが集まって山の草刈りをしたりしていること、また、そのほかに、自分で作った肥料を使ったり、花を育てている人の記事も、ていまして、新聞にはいろいろなことがのっているのて、とても便利です。

新聞のまとめ

六年二組 三十八番

川 瓶 鎮

ぼくの、新聞をまとめるきっかけは、先生からNIEのことを話してから、新聞のことを調べるようになった。新聞をまとめることで、世界のいろいろなところ、いろいろなことがわかった。今、一番話題になっていること、思うことは、輸入以外に、事件だと思えます。最初、ぼくは外選の資料は、野球のセリーグの巨人の松井のホームランのことや清原のホームランのことを調べようと思いましたが、最初に松井のことが始まりました。

壁新聞作りの思い出

六年二組 二十番

小林 宏光

ぼくは、学校での壁新聞作りを楽しみにしてました。なぜ楽しみにしていたのかというと、自分の家のこと、この世のなり新聞を読めるから、壁新聞作りを行う日を楽しみにしてました。

そして、楽しみにしていた壁新聞作りの日かきた。ぼくは設計図作りから始めた。最初は、カンカンカンガシタ、たぐとこりなつかしむとすると、さうさ、書けました。そして、出来上がったと、鏡をみたら、よくできたなと思えました。

※学校文集に載せた
子とEちゃんNIEの活動
についての作文

資料 2